６－３　実践協力校における授業実践
事例③　中学校　２年生社会科［地理的分野］

Ⅰ　単元計画

１．単元名　中学校第２学年　社会科［地理的分野］「身近な地域の調査」

２．単元の目標

①生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めて地域の課題を見出し、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養う。・

②市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身につける。

３．単元の指導計画（５時間扱い）

	ねらい（◇）・学習内容（◆）
１・２	◇副読本「私たちの郷土三浦」から、三浦市の大まかな特徴を知り、課題を考える。 ◆交通網の変化・人口の移り変わり・産業別人口の推移などの資料から、三浦市の大まかな特徴を読み取り、現在の三浦市の特徴をまとめる。
３	◇三浦市の地形（交通網・土地利用）を知り、課題を考える。 ◆三浦市の地図を見て、交通網・土地利用がどのようになっているのかを読み取り、前時の内容をふまえ「生活便利派（三浦市の生活がもっと便利になる方がいい）」「自然保護派（三浦市の自然環境を守った方がいい）」のどちらがよいかを考える。 ※「小網代の森」等の存在とその意味について考える。
４本時	◇根拠を基に自分の意見を述べることができる。 ◇さまざまな意見があることを知り、他者の意見を客観的に受け止めることができるようにする。 ◆「生活便利派」と「自然保護派」の対立軸をもとに立場を割り当て、グループ討論を行った後に、「三浦市の未来にとってどちらがよいか」を自分の立場を明らかにし、ワークシートに記入する。 ◆三浦市の都市計画地図を見て、三浦縦貫道路の延伸計画について知る。
５	◇「三浦市の魅力をより増すには、どうしたらよいか」について考える。 ◆三浦市の土地計画地図を見て、その計画が三浦市に「利便性」と「自然保護」の点からどのような影響を及ぼすのかを考える。

Ⅱ　本時の様子

１．本時の目標　○根拠を基に自分の意見を述べることができる。
○さまざまな意見があることを知り、他者の意見を客観的に受け止めることができるようにする。（4/5）

「政治的教養を育む教育」で身に付けさせたい力の視点

２．本時の展開

過程	学習活動（活動の流れ）	ポイントになる学びのプロセス
導入	課題提示 **「三浦市の未来の姿をディベートを通して考えよう」**	
	「日本の諸地域」で学んだ考察（自然環境・他地域との結び付きを中核とした考察）を活かし、三浦市の交通網や土地利用について「生活便利派（生活の利便性）」と「自然保護派（自然環境を守った方がよい）」に分かれディベートを行う。	

	①ディベート（討論）のルールを理解する。【全体】 ②「生活便利派」「自然保護派」が割り振られる。 ③割り振られた立場から見た「良いところ」と「悪いところ」をワークシートに記入する。【個人】	三浦市の未来について、自分の意見とは異なる立場にたったとしても、当事者意識をもって考え、ワークシートの記入をしようとしているか。（関心・意欲・態度） ・学級、学校、地域等の課題に気づく
展開	●４人班になり、作戦を考える。 ●ディベートを開始する。【グループ】 ①それぞれの立場からの意見を述べる。 ↓相手側の意見に対し質問を考える。 ②それぞれの立場から質問をする。 ↓質問に対し回答を考える。 ③それぞれの立場から回答を述べる。	三浦市の未来について多面的・多角的に考え、根拠をもとに意見を述べているか。（思考・判断・表現） ・課題について考える
まとめ	●活動を通して、改めて自分の考えに基づいた立場を決め、その理由をワークシートに記入する。【個人】 ●三浦市役所から入手した都市計画図を見て、計画中の「三浦縦貫道路」について知り、次時につなげる。 **目指す子どもの姿** 三浦市が将来どんな市になっていてほしいのか、資料を根拠に自分の考えを構築し、当事者意識をもって（自分のこととして）考えられる姿。	根拠に基づいて、それぞれの主張を考える ディベート形式で質問と回答を行うことで、相反する立場の主張について深く考える 授業を通じて、自分の考えを再構築する

Ⅲ　研究協議



１．自評

○どの学校でもアレンジして取り組める題材であり、かつ生徒が当事者意識を持てる課題設定をめざした。

○市役所で「都市計画図」を入手したことから、「三浦縦貫道路計画」を題材とすることに決定した。生徒は建設中の道路を目にしており、身近でありかつ道路ができることに関心が持てることが期待された。

○論点を絞るため、二項対立にこだわった（あえてコスト等のテーマは除いた）。道路ができて生活が便利になる方がよいと考える生徒が多くなることを想定し、ディベート形式の討論にしたが、これでよかったのか。

○休み時間などに、自分たちの住むまちのことをあたりまえに話題にするような生徒が理想の姿である。

２．研究協議のテーマ

○自らの意見を深めるための合意形成の手法について

３．成果と課題

成果・合意形成の体験を小⇒中を通して積み重ねること、合意形成をめざす姿勢や気持ちを育成すること、少数意見の尊重が重要であることが確認された。

課題・生徒自身が「立場を自分で決める」ことでテーマを自分のこととして引き寄せないと、合意形成を図ることそのものが難しくなる。また、ディベート形式の場合は、勝ち負けではなく、双方の立場を見る手法として行うことを強調し、最終的に第三の意見（折衷案等）でもよいことを知らせるとよい。

Ⅳ　実践協力校での授業実践を基にした指導事例

H29-３　中学校　２年生社会科[地理的分野]

「身近な地域の調査　市の未来を考えよう」

【単元目標】

・市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けると同時に、地域に対する理解と関心を深め、地域の課題を見いだし、それらを「自分のこと」としてとらえ、様々な資料や他者の意見を参考に、自分の考えを再構築して、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を身に付ける。

【目指す子どもの姿】

・自分たちの住む地域（市町村規模）が将来どんな地域になっていてほしいのか、資料を根拠に自分の考えを構築し、当事者意識をもって（自分のこととして）考えられる姿。

１　本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

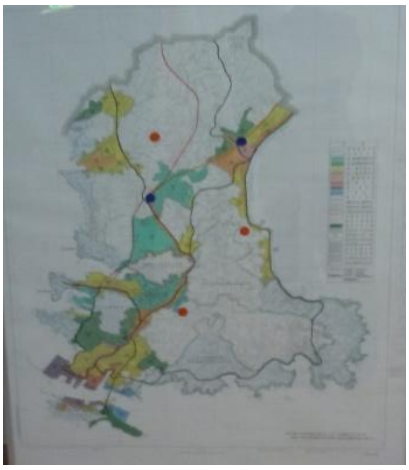
学　習　活　動（全５時間）	ポイントになる学びのプロセス
市の特色について考える② ・交通網の変化、人口の移り変わり、産業別人口の推移等、複数の観点をもとに、地形図等の資料から読み取り、現在の市の特色について考える。 Ｓ：交通網の発達は、産業にどんな影響を与えたのかな？ Ｓ：学校の統廃合から、人口減少や少子高齢化が進んでいることがわかるね。	ポイント１ 自分の身の周りのできごとに関心をもつ
市の課題について話し合い、あるべき未来の姿を考えよう① ・市の課題について気づいたことを話合い、市のあるべき未来について、当事者意識をもって考える。 Ｔ：私たちの住んでいる市には、どのような課題があるのでしょうか？ Ｓ：バスの本数が少ない。大きな道路がない地域にはバスが通ってないよ。交通手段がもっと増えれば、住みやすい街になると思う。 Ｓ：道路を広げて新しい道路を作ると、森や畑をつぶさなきゃならないから、困る人もいるかもしれない。いっそ、のどかな田園風景や自然環境をアピールすることで、観光客が増えるかもしれない。	ポイント２ 課題について考える
市の未来の姿をディベート形式で考えよう② ・前時で生徒が出した意見から、対立軸を設定し、ディベート形式で討論を行うことで、自分の考えを深める。 Ｔ：「交通網が発達した市」と「環境保全を魅力とする市」と、どちらが市の未来としてふさわしいですか。まず自分の意見をまとめます。次にチームで討論会を行うための作戦を考えます。最後に討論会を通して、自分の意見がどう変わったか、または深まったかを発表してもらいます。 Ｓ：自然環境が魅力的でも、交通の便が悪いと、不便で観光客は来ないよ。 Ｓ：交通が便利になって、人が仕事で市外へ出たら市はさびれると思う。 Ｔ：討論会をやって、自分の意見が変わったり、深まったりしましたか。 Ｓ：開発をして交通が便利になる反面、失ってしまう自然環境もあることに気づけた。答えは出ないけど、将来、どんな市になってほしいかを考え続けたい。	ポイント３ さまざまな考えから自分の考えを構築する

2　政治的教養を育むポイント

ポイント1

地域の教材を積極的に活用しましょう。

ポイント2



身近な地域の調査の学習では、資料の的確な読み取りが大切です。地域の新・旧の地形図はもちろんのこと、地域の景観をうつした写真、小学校で配付された副読本などを活用しましょう。また、本事例のように、地域の課題を考えさせるためには、生徒自身による現地調査も有効です。

多くの地方自治体は、都市計画についての情報をウェブサイト等で発信しています。さらに問合せれば、都市計画図を入手することも可能です。生徒にとって、自分たちの住んでいる地方自治体のめざす都市計画をふまえた上で「わがまちの未来」を考えさせることは、生徒の地域社会への参画意識を育む土台となることでしょう。

ポイント3

合意形成を図る多様な経験の機会を設けましょう。



平成 29 年改訂学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の推進や、従来行われてきた言語活動の一層の重視が求められています。このことは、他者と連携・協働しながら自らの考えを深め、主体的に判断し、よりよい社会のために行動できる姿勢を育むという「小・中学校における政治的教養を育む教育」の目指す子どもの姿につながります。

単元計画を作成する際、まずは、生徒が「自分のこと」として主体的に論争したくなるような主題設定を心がけましょう。その上で、生徒同士の話し合いによる意見交換や討論・ディベート等においては、生徒の発達の段階を踏まえ、どの段階までの合意形成を目指すのか、授業者が見通し(ゴール)を持つことが重要です。

本事例では、前時で生徒が出した意見から対立軸を設定し、ディベート形式で討論を行うことで、多様な意見をもとにして自分の考えを深めることをねらいとしていますが、目の前の生徒の実態に応じて、意見交換を主体とした話し合い活動を行うことも考えられます。

また、合意形成を目指して行動することの大切さを生徒に理解させるために、授業者は、少数意見の尊重について生徒が体感できるような工夫を心がけましょう。政治的教養の育成には、多様な合意形成の在り方を、繰り返し体験させることが重要です。